

# お ち か し ょ う 小値賀諸島の文化的景観

No.42-02

所在地：長崎県小値賀町  
面積：1,124.3ha

選定年月日：平成23年2月7日、平成23年9月21日追加  
選定基準：二(一)(二)(四)(七)(八))

## (1) 概要

小値賀島は大小17の島嶼(とうしょ)群で形成される小値賀町の主島であり、火山活動によって形成された複雑な地形とともに、各種の亜熱帯性植物や野生生物が根づく独特の風土を持っています。各島は、古くより島嶼間を移動しつつ農業や放牧を営む独特の生活様式を維持してきました。

文字資料における小値賀島笛吹の初見は明徳元年(1390)ですが、この地は遣唐使船の通過地点として古代において既に流通・往来における重要な拠点であったと考えられ、室町時代には日明貿易に基づく中世の港湾都市として栄えます。江戸時代になると、平戸藩の下で異教徒や異国船の監視を目的とし、押役所や遠見番所が設置されました。

笛吹の集落は、農村地帯の笛吹在と漁業者・各種職人・商業者等が混在する笛吹浦の2地区に大きく別れて形成され、江戸期には壱岐より移住した小田家が鯨組を組織し、新田開発等の事業展開を行うことによって経済的に成長します。島嶼間を移動する生活は、参詣や墓参の営みとして現在まで継承されています。

このように「小値賀諸島の文化的景観」は、多様な地形的特徴を示す島嶼間の移動や近隣諸国との流通・往来に基づいて発展した港や居住地等によって形成される独特の文化的景観です。



小値賀島笛吹集落



浦町地区の古民家と石垣

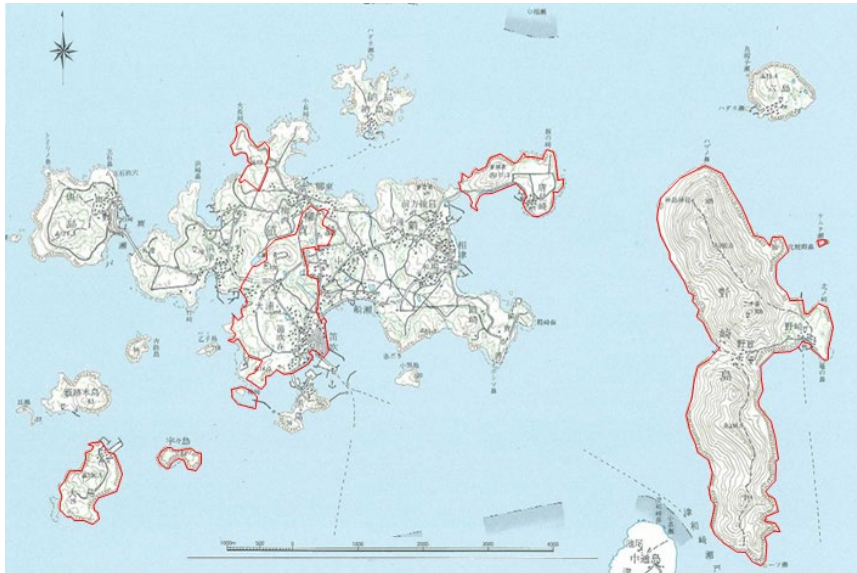


笛吹新町路地の古民家



大島全景

## （２）選定範囲



重要文化的景観の選定範囲

- 重要な構成要素：92件

## （３）選定による効果

小値賀町では地域固有の特性を活かした良好な景観形成を推進するため、平成20年度より文化的景観保存調査に着手し、平成23年2月及び同年9月には小値賀本島の一部範囲、また、野崎島、大島、宇々島については、全域が小値賀諸島の文化的景観として国の重要文化的景観に選定されました。

選定を機に住民のなかでは、景観保護意識の醸成が進み、町並みガイドや景観講座などが行われているほか、伝統的な町屋をリノベーションし、飲食店として活用する事例など、活性化が見られています。



町並みガイドの様子



伝統的な町屋を活用した飲食店

## （４）保存活用計画などの基礎情報

- 小値賀諸島の文化的景観保存計画(Ⅰ)(平成22年7月、小値賀町)
- 小値賀諸島の文化的景観保存計画(Ⅱ)(平成23年1月、小値賀町)
- 小値賀諸島の文化的景観保存調査報告書(平成24年3月、小値賀町)
- 小値賀諸島の文化的景観整備活用計画(平成27年3月)
- ホームページ <http://ojika.net/>



## （５）活用事例

### 事例42-02 ①

### かつての商家を活用した、地域内外の人の憩いの場としてのガイダンス施設の整備

文化庁補助金

#### ●行政による取り組み

小値賀島の笛吹集落は、古くより町の中心地として栄え、現在でも明治、大正期に建築された伝統的な木造家屋が軒を連ねます。なかでも、笛吹大通り周辺地は、軒高5mを越える大型の商家建築が多く立ち並ぶ独特の景観が見られます。

商家尼忠東店は、これら大型商家建築の中心的存在を成す建物です。明治41年に建築され、和洋雑貨、化粧品などの小間物を扱うなど、地域に深く愛された商店でしたが、平成15年に閉店となりました。その後、平成23年には地域の拠点施設としての活用を望む所有者の意向により、町へ無償譲渡されました。

これを受け、町は平成24年度に町民20名から成る、活用計画検討組織を設置。計4回にわたる検討会の実施を経て、地域内外の人々の憩いの場である、ガイダンス施設とすることで決定しました。

平成25年度の設計、同26年度の工事を経て、同27年度より供用を開始し、多くの方々に文化的景観の魅力を伝えています。また、施設管理については施設が所在する地元自治会に管理の一部を委託するなど、地域と協働で取り組んでいます。



修理前



修理後



交流イベントやマルシェが開かれ、地域内外の人が来訪



文化的景観を魅力を伝えるパネル展



学校帰りに宿題をする小学生



卓球台が置かれ、地域内外の人々が憩うコロナ後は更に活用が盛んに

① 地域内での  
魅力の共有② 活性化の  
共有③ 地域外への  
広報④ 魅力を引き  
出す開発⑤ 財源の  
確保と運用

⑥ 人づくり

## （５）活用事例

### 事例42-02 ②

### ふるさと学習のフィールドとしての文化的景観

#### ●行政と住民等の協働による取り組み

町で唯一の小値賀中学校では、毎年、学校に町の学芸員の派遣を受け、ふるさと学習の一環として、郷土の歴史や文化を学んでいます。

ふるさと学習の教材として、町内各地に残る文化的景観の活用が積極的に図られており、生徒と教員、学芸員が地域を訪れ、文化的景観を通して、魅力ある地域の営みや文化を学んでいます。

具体的な活動として、地域に暮らす住民の方々から、伝統的な暮らしや風習をうかがったり、生徒自ら、白地図を持って地域を探索し、文化的景観を構成する様々な要素を見つけ、地図に位置や特徴を記録する「文化的景観マップ」作りなどがあります。

ふるさと学習は、生徒と教員にとっては、地域の魅力を改めて学ぶ機会となり、また、受け入れる住民の方々にとっては、地域の宝である生徒たちと触れ合う、貴重な機会となるなど、地域の活性化にも寄与しています。



住民の方へのヒアリング



住民の方との座談会



文化的景観マップ作りの様子



文化的景観マップのお披露目会

① 地域内での  
魅力の共有

② 活性化の  
目標の共有

③ 広域外への  
広報

④ 魅力を引き  
出す開発

⑤ 資源の  
確保と運用

⑥ 人づくり・  
人育